

立命館アジア太平洋大学 第2回 学長候補者選考委員会議事録

日 時 : 2025年12月16日(火) 18時00分～19時17分

場 所 : APU本部棟3階 第5会議室(ZOOM接続あり)

委 員 : 委員長 浅野 昭人(副学長・常務理事)
委員 陳 慶昌(アジア太平洋学部 教授)
VYAS Utpal(アジア太平洋学部 准教授)
柳 ボスル(国際経営学部 准教授)
福山 公博(国際経営学部 准教授)
四本 幸夫(サステイナビリティ観光学部 教授)
山根 友美(サステイナビリティ観光学部 准教授)
JUNG Jonghee(言語教育センター 准教授)
鶴原 利泰(教育開発・学修支援センター 准教授)
日野 智志(立命館アジア太平洋大学事務局 次長)
金剛 理恵(アウトリーチ・リサーチ・オフィス 課長補佐)
寺井 俊裕(アウトリーチ・リサーチ・オフィス 課長補佐)
朴 勝優(アカデミック・オフィス 課長補佐)
眞次 純一(校友)
UWINEZA CELINE(校友)
ABDULLAH Junaid(校友)
JHAASHMI(在校生 特命副学長)
荒牧 順子(APU国内学生後援会)

選考管理委員 : 吉川 卓郎(委員長)、ACKARADEJRUANGSRI P.、宮原 久実

事務局 : 井上 智香子(立命館アジア太平洋大学事務局 副事務局長)、
藤原 将人(全学企画オフィス 課長)、小鶴 恭子(全学企画オフィス 職員)

※ 下線は欠席者

(委員18名、出席者16名、委員会成立)

(議事録署名人: 柳 ボスル、福山 公博)

.....

【議題】

1. 議事録承認

前回、第1回学長候補者選考委員会議事録が承認された。

2. 学長候補者選考の公募要項について

浅野委員長より事務局で作成した学長候補者選考の公募要項(案)について説明が行われた。

(朴) 学長に求められる役割に立命館憲章を記載してはどうか。

(浅野) 公募開始までに現在検討を進めている立命館憲章が確定していれば参考資料として掲載することは可能である。

(Pajaree
選考管理委員) 日本語版と英語版で内容に差異が生じている。

(浅野) 今回、時間的な都合で簡易的な英訳を作成した。今後、募集を行う際はネイティブチェックを入れた英訳を作成する。

(VYAS) 資質のところに記載されている内容で「異文化と多様性の経験の推進」について

- てこれは「望ましい」ではなく「必要とされる」もしくは「強く求められる」という表現に修正してはどうか。望ましいでは弱い。
- (JHA) 大学の進む方向性と公募の内容が合致しているかを確認するため、大学の今後の方向性を示す情報が必要である。
- (浅野) 先ほども申し上げた通り、APU2030 後半期事業計画がもうすぐ完成する。完成次第添付する。それを見ることで、APU が今後進む方向性が見えればご本人の考えていることも確認できると考えられる。
- (鶴原) 母国語以外の言語を求めているのは、選考時に何か確認をするのか。
- (浅野) 学長として何を指すのかということについて最終選考で、教員採用の際に行う模擬講義のように反対言語での回答や説明を求めることが想定される。ただし、母国語以外を話せる方であっても何等か証明できるような資格までは現行求めている。
- (UWINEZA) 学長候補者の役割に校友会活動を支援する姿勢を求める項目を追加できないか。世界中に広がる校友会のネットワークを考慮すると、必須要件ではないかもしれないが、盛り込みたいと考えている。
- (浅野) 何らかの形で校友会との関係構築に関する点も、盛り込みたいと考えている。
- (浅野) 前回の学長候補者選考でも議論になった博士号と修士号など学位の取り扱いについて相談したい。学長候補者としてビジネス界の方を考慮すると、学位の取り扱いが非常に大きく影響する。そのため、前回は一定の職務経歴、国際機関や企業などの職務経歴の方は修士号以上を前提とし、学術界の方については、博士号以上ということを経験とした。ただし、学位の有無を超える能力や資質がある候補者に関しては総合的に判断する、という結論に達した。本件について、委員の皆さんのご意見を伺いたい。
- (福山) 学位の記載についてこれでよいと考えている。出口学長のような実績を持っている方であれば受け入れるということ。基本的には学長としての一定の実績や業績が必要になるため、今の記載がふさわしいと考えている。
- (浅野) もう一点、応募方法についても相談したい。前回は特段方法を決めずに郵送と電子メールにて受け付けていた。その際、最低限本学として必要な情報の記載がないことや様々な形式で応募書類が寄せられたため、情報の整理に時間がかかった。一方で、特に海外の方からの応募や教育・研究機関で勤務される方は既にご自身の履歴書が手元にあることが多いと聞く。そのため、今回は最低限必要な項目は本学が指定し、すでに手元にあるような履歴書や候補者が追加で提出したい書類は自由に添付できる形式での応募方法にしたいと考えている。
- (福山) この応募方法で差し支えないと考えている。必要最低限の記載を求め、残りは自由とし、それにより事務局の負担が減り選考もしやすくなるということであれば、構わないのではないかと。
- (Pajaree
選考管理委員)
(事務局) 志望動機書と推薦状は選考に役立つ大変重要な情報である。そのため、今回推薦状を取得しない理由があれば教えてほしい。また、Forms を使ってはどうか Forms は外部者が書類をアップロードできないので Rising-FDC という法人全体で使っているシステムを使って応募フォームを作成する予定である。
- (日野)
(事務局) 締め切り日時には日本時間であることを示した方が良い。
- (山根) 連絡先が何を指すのか明確にした方が良い。また、LinkedIn や Google Scholar、その他 SNS のアカウントを参考として尋ねてはどうか。
- (浅野) 基本的には本学からの連絡は電子メールで行うが、電話番号ではなく連絡先住所を想定していた。また、SNS についても事務局と相談の上次回改めて提案し

- たい。
- (JHA) 候補者となる対象年齢の幅を記載してはどうか。また、日英両言語の運用能力が高い候補者を優先する場合には、短い動画の提出を求める方法も選考に有効である。
- (浅野) 年齢制限は特に設けていないが、全く年齢が不明であるというのも選考時に判断に迷うため今回は生年月日の回答を求めている。また、動画については提出が難しい年齢層が想定される。一方で、自身の紹介動画に関して掲載すること自体を妨げるものではない。
- (JHA) 推薦状に関して、日英どちらの言語でも受け付ける旨を明記することは可能か。
- (浅野) 提出書類は、推薦状に限らずすべて日英どちらの言語でも提出が可能であることを明記する。また、補足として、今回著作物等の提出は任意であることを記載している。選考委員全員分の送付は難しいため、公募要項案に記載の通り、事務局で3部程度受け取り、それを閲覧する方法にしたい
- (UWINEZA) 公募の締め切りはいつか。
- (浅野) 最終的には委員会で議論し確定するが、現時点では、2月の下旬から5月の下旬を想定している。
- (UWINEZA) 公聴会は応募者に対して行うのか。
- (浅野) 公聴会は、APUの構成メンバーである教員、職員、校友、学生、父母の皆さんに対して公募要項（案）について意見を伺う会である。

3. 公聴会について

浅野委員長より公聴会について説明が行われた。

- (荒牧) すべての区分の公聴会に参加が必要か。
- (浅野) ご自身が選出された区分の参加をお願いしたい。
- (山根) 今回も、選考委員として推薦するが、法人の方で学長を決めるとのことだが、前は委員会が推薦した人が選ばれたのか。
- (浅野) 複数名の候補者を学園に推薦する。学長候補者選考委員会で投票し、得票数の多い順で、理事会に推薦をする。

4. 第4回学長候補者選考委員会について（ご相談）

浅野委員長より次回委員会の日程について後日事務局から連絡することが報告された。